

… 雨でも休まず；第93、94、95回 …

## 「若柳嵐山の森・小原本陣の森」から

- ・活動1：若柳嵐山の森：2月1日(第一土曜日)、参加費300円。  
弁当持参。作業は、早めに切り上げて活動内容充実を相談する。
- ・活動2：小原本陣の森：2月9日(第二日曜日) 参加費300円。  
弁当持参、9時15分駅前集合。車分乗で行く。新しい試みに挑戦
- ・活動3：若柳嵐山の森：1月16日(第三日曜日) 参加費500円。  
弁当は飯だけ持ってくる事、4月予定の植樹祭準備などを行う。
- ・活動3のみ、必ず申込必要：TEL&FAX 03-3411-1636(石村)
- ・集 合：相模湖駅前9時15分。8時42分、9時02分のJR高尾発に乗るべし。
- ・服 装；汚れても良い格好・着替え 着替え 足元が滑らない履物
- ・持参品；軍手、自分の食器、万一の怪我に備えて…保険証写し

そして、作業を楽しむ“ゆとり”と怪我をしない「心構え」

### ◎ 報告／かながわボランタリ基金21：落選

この基金が発足して3年、約200の団体が挑戦して5団体が県との協働事業となっている。昨年夏、当会は、法人になったので初挑戦した。一次選考で8団体の一つに選ばれて22日、横浜西口の県民センターでプレゼンテーション選考会に出場した。前年継続の5団体と合計13団体が政策発表と質問回答、持ち時間10分で戦った。審査会委員は、堀田 力会長（財・さわやか福祉財団理事長）と学識・知識実務の合計7名の委員であった。

堀田氏による当会の評価は「崇高な理想と壮大な計画、実践の実績に敬意を表します。落選理由は、県との協働と言う意味で準備が足りない。事業の大きさに比べ、事業の核・手順・県との役割分担など今一つ準備と説得力に欠けます。しかし、私たちは、貴会の活動に学ぶ事が多々ありました。当委員会が指摘した事を解決して来年も是非、挑戦して下さい」であった。

出場の他団体：難民救護活動、本人が当事者の犯罪被害者救済、難病闘病児童の支援、引きこもり青少年の救済、DM（家庭内暴力）の救護等の各団体の活動の真剣さ、真面目さ、活動の苦しさなど、善意で報われの少ない行為を実行に移している人々の活動に胸の痛くなる思いがした。堀田氏も全部を採用できない胸の苦しさを切々と訴え、これにめげずに活動を継続して欲しいと言った。堀田氏は、全てを投げうってNPO活動をわが国に根付かせようとしている人だ…と人伝に聞いている。この人の各団体に対する審査評価の一つ一つに労りと愛情を感じさせるものであったし、当会が何をすべきかを明解にしてくれた。各団体のサポーター約40人程いたが、森林仲間が13人も来てくれた。遠く相模湖町の尾形さんの姿も見えた。こんな沢山の人々に支えられている当会が嬉しい。委員会の指摘した課題を解決して来年も挑戦する。

## 活動報告 1 : 松の内／雪でも休まず：第一土曜日(1月4日) 報告：加藤（ ）石村

・出かける時は雪でも現地は快晴。天も会の活動を支援するのか。正月の4日と言うのに、小6の邦久を含めて23人の森の仲間が集まつた。森の保全に熱意・情熱・使命感を持つ仲間が増えて来たと言う事だ。前途は明るい。

・先ず、年初の森の神様へお神酒を捧げ、山主／鈴木重彦氏の挨拶と仲間の安全・健康、会の発展を祈念し大日向さんをリーダーとする「立枯らし整備班」と斎藤(豊)さんの「観察道整備班」を編成した。「立枯らし」とは、聞き慣れぬが立ち木のまま、木が成長する形成層を切り取り木を枯らす手法の由。林内の微気象の変化を少なくし伐採を容易にするとの事である。

・観察道整備班は、広葉樹の森から東海自然遊歩道に向かう水のしたたる水源の急坂補強。雪に埋もれた伐倒木を掘り起こし土留杭を打ち込む作業は、雪で滑る足元悪し、指先は痺れるの冷感地獄。“事故を起こさない事”が活動の原点と気配り目配り、細心注意で仕上げた成果に歓喜が沸き上がる。

・「お節の残りと自分のお神酒は持っておいで」と言っておいたら、出るわ出るわ、有り余るばかりの珍味と美酒が、間伐材製テーブルに並ぶ。雪に陽光が輝き、焚き火を囲んで「こんな贅沢な雪見酒が、この世にあったのか」…、と言う訳で午後は新年を寿ぐ宴となった。

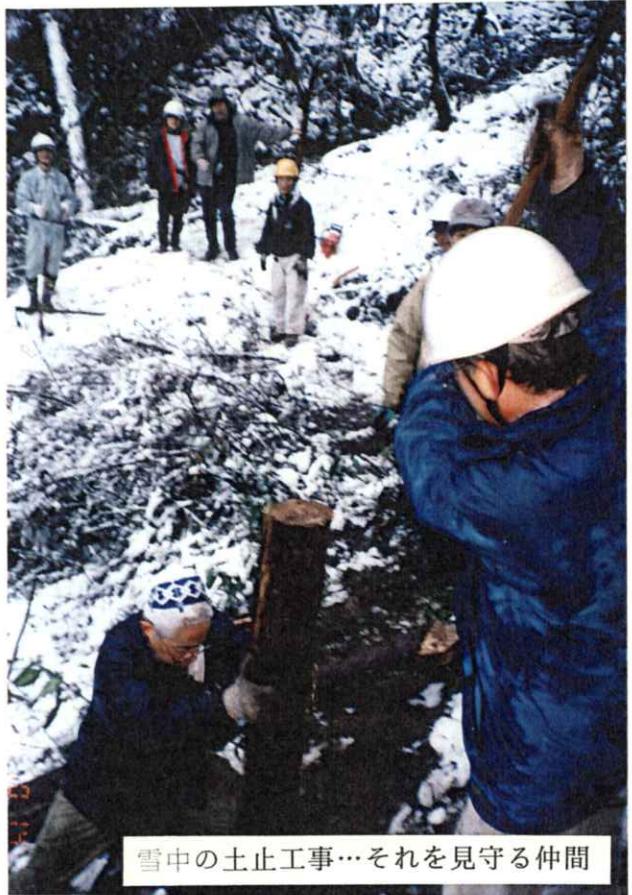
・誰が言い出したか「活動は、もっと本格的な森林整備に進もう」の声に反応した仲間が集まる。先ず、鈴木(孝)さんが「俺に考えがある」と週明け早々に津久井森林組合を尋ねる事となった。また、4月予定の「春爛漫：植樹祭計画」には、クレームが付いた。「この計画は、森林と生態系の調和を考えない安直な考え、練り直せ」と激怒したのは、丸茂さん。全くだ、悪かった、その熱意と情熱や良し。これも週明けに県森林研究所やプロの篠田さんや林さんの指導を受ける事とした。

・“雪でも休まぬ”第92回目の活動の見事な成果に仲間たちは満足して、陽の陰る森を後にした。

## ● 新春／小原本陣の森：活動報告2、第二日曜日／12日 報告：鈴木孝雄

快晴、参加7人（私事、小原本陣に初見参）。先ず、石村さんの「小原本陣の森」の会にとっての位置付けを説明は、多用な森林作業を可能性を秘めた森であること。更に、この小原地区の“小原本陣”が県の文化遺産の指定を受けており大切に後世に残さねばならぬ事などを説明する、云々。

次に、斎藤さんが予定されている砂防ダム工事の概要を県土木提供の設計図に基づき説明…鋼製スリット堰堤2ヶ所・コンクリート砂防堰堤1ヶ所の計3ヶ所なし4ヶ所。15年度調査、16年度から5年間工事のため、この地区の森林作業は一時中断となる。そのための新たな展開を考えるために森林明細図を参考に大久保林道・入沢を溯上して“孫山の頭(542.8m)”に至る。ここから小原本陣ルートの開設可能性に向けて、その尾根を下る事とした（途中：野・巣などの巣を観）。その後、尾根下りにノコ・ナタを使いながら木の間隠れに相模湖を右に見て、南東／尾根沿いに“小原本陣方面”に向けて下る（途中、ヤマユガの



雪中の土止工事…それを見守る仲間

マユ観）。約1時間の行程後、陽当たりの尾根・軟斜面で昼食後、30分も進むと逆落としの急斜面に遭遇。それをシャニムニ下る事1時間半、ビックリの針葉樹美林に至るが方向を間違えたらしく民家の裏庭に出る。地図を見、コンパスで方向を確かめながら降りたのに何んたるドジ、情けない、反省。

「チョット御免なすって」と庭先の老爺にご挨拶をしながら、そのお年寄りにその「裏の美林の所有者はどなた様のものでしょうか」とお聞きしたらご本人であった。この美林を他の仲間にも見せたいと言ったら「何時でも、どうぞ」と良き先達に出会えた事を喜びつつ小原の里に至る途中、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ハクセキレイ、小原本陣敷内でコガラの群れ発見。良き一日であった。

## ◎ 活動報告 3、第三日曜日／19日：若柳嵐山の森・新年会

午後に新年会と本格的な活動開始のこの日に集まつたのは54人。

園田指導員の先達で正式の手順による森入り口の神様に昨年無事故の感謝と今年のより良き活動と仲間の安全を祈願をした。

この森を貸して下さる鈴木様には、潮田さんが会を代表してその庭先を借りて年賀のご挨拶を全員でした。

毎年の事ながら年初のこの儀式は身の引き締まる思いがする。

この日、協力協約整備の森の進行状況を県林務の厚沢技師がチェックと指導に来てくれた。その評価は、

「予想以上の出来、80点。あと上部の枝打ち林床整理を残すのみ」と言う事であった。嬉しかった。

作業を少し早めに切り上げて新年会は、湖畔の大正館の食堂に役員の尾形さんや「大月笹子・森つくりの会」の河西さん。甲斐東部材の和智さんは、手製のドブロクと桶漬物を下げる参加。辻田さん、入江さんの司会進行は、素晴らしい盛り上がりを見せ、恒例の昨年の功労者表彰は以下の通り。

- ・和田さん：あらゆる万能の技を發揮して活動を一層、楽しく嬉しくしてくれました賞。
- ・大坪さん：炭窯班を代表して／三度も天井を落としても未だ、へこたれず四度目に挑戦、偉い賞。
- ・篠田さん：素晴らしい知識と指導力、深い洞察力に参った。有り難い感謝賞。
- ・清水さん：造園班を代表して／遊歩道沿いに美しい庭園にハイカーも立ち寄り、完成が楽しみです賞。
- ・金児さん：毎月、確実に素早いHPの更新は並大抵の努力ではできません。これを見て参加する人も増えています。心からありがとう賞。… 今後もお願いします。



「森に対する想いを何か、話して」と入江司会進行役の突然の指名を受けても全員、堂々とした意見を持っている仲間たちのレベルの高さには驚かされる。小六の翔太などは少しもひるまず大声の「森林・最高ッ」の一聲に“オーッ”と大人たちは大拍手など。出し物の最後は、「神の木に 声・朗々と 山始め … 大日向」。そして、宴の締めは、大ベテランの富沢さんによる一本でキッチリ決まった。後片付けも日頃の技を發揮して全員手分けのゴミ一つ残さぬ約10分で終了。

## 小原本陣の森／砂防ダムの事

昨年四月、「小原本陣の森活動」を開始する当日(第二曜日14日)、小原集落全戸を辻田さんと入山の挨拶に巡回した。途中で会った主婦から立ち話で、この森に砂防ダムの建設予定のある事を聞いた。活動に影響のある事なので町役場に問い合わせたところ、県土木が担当窓口で「説明会を計画しましょう」の返事を受け、去る12月26日、県土木が来てくれると言う事になって大坪さん、斎藤さん2人の森仲間と町役場に出かけた。

詳細な調査・計画図による県土木の説明は、この地は、もろい「白亜紀古第三期」の地質で沢入り口に10軒ほどの人家があつて対策が必要との事。説明は、納得できる内容であったが我々は素人で判断が付かないから、砂防学の碩学：塙本良則先生(農大名譽教授)にご指導を受けたら「私も現場を知っています。手配が必要です」とのご指導であった。只、誰が見てもおかしいと感ずる急斜面のこんな場所に住宅建設を許可した責任こそ問われるべき。バフルのツケがこんな所にもある。このような状況にあるから「小原本陣の森」の活動計画の見直しが必要となった。そこで、この地の長老にして当会理事の永井宏一さんに相談するなど、資料を揃えて森仲間と今後の活動に就いて相談している。

## 相模川流域通貨：「リバー」

善意と善意の交換である「地域通貨」の考え方を持ち込んだNHKの河邑厚徳さんが昨年4月、相模湖町で講演をしてくれた。それがこの12月26日、相模湖町の人々が商工会を事務局にして「相模川流域通貨：リバー」と言う単位で活動を開始する事になった。流域と言う考え方には、森仲間の丸茂さんが「地域と言うより相模川流域は、どう？」と言う提案による。我々の活動は、桂川・相模川から大月や湘南海岸にまで繋がり掛かっているのだが相模湖町も「良い考えだ」と受入れてくれて相模湖町商工会を事務局に正式に発足する事になった。創立総会当日、忍野百海から天野さん、都留市から吉田さん、大月から河西さん、横浜から大坪さん・牧島さんなど流域を繋いだ40人ちかくのメンバーが集まった。河邑さんに報告したら「流域」という考え方には、初めて聞く話し。是非、成功させて欲しい」の激励。副会長を務める事になった森仲間の牧島さんは、この仕組みの発展のために流域を繋いで河邑さんの講演と指導を計画している。“善意と善意の心の交流：流域通貨(通貨と言うがお金では無い)”は、新しい価値観でこの詳しい内容は、河邑さんの著書：「エンデの遺言」と「エンデの警鐘」(NHK出版)を読んで欲しい。

### 森林整備請負事業(準備)班

…立ち上がる…

園田さんから「何んとか森林の荒廃を止めたい。我々で森林整備を事業として請負えないか」の提案を受けて、仲間たちが「取り組んでみよう」と森に集まった。その名は、加藤(筆)、斎藤(豊)、鈴木(孝)、田野口さん4名だが、他の森林仲間も強い関心示している。森林の維持が難しいこのご時世、最初は慎重に取り敢えずこのメンバーで半年ばかり調査・実践してみてからにしようと提案があった。…と言うわけで鈴木(孝)さんが津久井森林組合の天野専務を訪問して森林作業の現場に入って教えを乞う事とした。また、われわれも法人になったのだから町の事業も請負おうと津久井四町(藤野・相模湖・津久井・城山)の入札指名参加の登録もしておこうと回って書類を貰った。そして、森林仲間と相談して班編成に繋ぐ事とした。

### カドヤの灯を消すな

駅前カドヤの厨房を守るマキエさんの兄貴が突然、病死して沢山の人々が「カドヤの灯」の消える事を心配した。誰が言い出したかマキエさんを励まして支えようと曾根さん他15名ばかりが21日夜、カドヤに集った。飛び入りで商工会の大神田さんも参加した。マキエさんのご主人も参加したがこんなご夫婦だから、カドヤは素晴らしい優しい雰囲気なるのだ。皆で支えて行こうと誓いあった。

## 会員各位

特定非営利活動法人

緑のダム北相模

報告／石村黄仁

○報告1／臨時総会：1月19日、新年会に入る前、定款の一部変更と追加のために出席者56名参加で会場は、大正館。

- 1) 主たる事務所移転 : 新しい事務所：相模湖町若柳30番地
- 2) 特定非営利活動に係る事業追加：「8 その他、森林に関わる公益事業」を鈴木代表理事を議長に満場一致の賛成合意で採択した。

●報告2／F C C (Forest Connected with Consumer)／(CoC) 第二回会合

1月20日、大月市の甲斐東部材成型協同組合内で黒川教授、山梨林務、大月林務、南都留・北都留・大月森林組合、林業家、匠の会、建具組合、消費者団体、合計27名が集まって「桂川・相模川流域材」の流通を計る討議を行った。先ず、匠の会や建具組合などのこの業界のプロの目で上流山梨の木の品質・数量・製材技術を確認した。次いで、黒川教授による「流域材を活かせ／建築思想と黒川構法：大断面軸受スケルトンログ・ドミノ」のVTRと講義を聞いた。

また、NPO緑のダムとしての「黒川構法活用／流域材の普及販売戦略」を説明した。質問・討議・対策に入る前に「全ての壁を取り払って本音で話して欲しい。そうで無ければ、私たちは消費者に本当の事が伝えられないし、消費者を裏切る事になる」とお願いした。そのせいか「匠の会、桂川・相模川流域協議会、森つくりの会」は爆弾発言をした。

- 1) 「ここに巨大な集成材工場を建設中だが、山梨県はFSC認証を取り、流域材を普及しようとしている時に、この県森林のド真ん中の工場が全部、外材で出来ているのは、何事か」  
これに対して県および組合責任者は、納期とコストを言い訳した。それに激怒したのが牧島さん。
- 2) 「ここに責任者がいないからそうなる。社長のいない会社のようなものだ。責任者を作れ」  
それに取り組むと専務理事が言った。
- 3) 「理念・理想・抽象論を言わず“県産材モデル建造物”を形で示せ」…に対して山梨県林務が「取り組む」と約束した。我々は、これを支持し共に支える。

桂川・相模川流域で経済が循環する経済圏を作る事を考えている。河邑厚徳さん(NHK)がそのヒントを与えてくれている。3月に相模原市で消費者と一緒に第三回FCC会合を開く。

CoCからFCCに変えた理由だか、WWF シャパン(世界自然保護基金日本委員会)の進める理想より利益を求める人々の集まりと感ずるCoC(流通システム:山梨会)が納得・理解出来ないからだ。私たちは心底、森林にお金を返す仕組みを作りたい。ラベルが一人歩きしないように十分の監視の下、「子孫に負の遺産を残さない」運動を起こすのだ。森林(所有者)と都市(流域材製品を買う人々)の顔の見える距離/Forest Connected with Consumer)を実行する。世界の森林を守る運動は崇高なものだが、自分の国(森林)が滅びかかっているのに外国まで行って木を植える余裕はない。

“森の入り口：みよし”の左側に大谷石を敷きつめた休憩所を作っている。この休憩所の大谷石も不要となった塀などに使われていた物だ。一見したところ軽石のような風情をしているが、その実、かなり重い。持ち上げようすると、とてつもなく重い。やさ男と思ったが格闘したら飛んでもなく強い相手だったようなものである。解体処理で出たこの大谷石を貰う時、それをくれた人も「大谷石もその様な使い方をしてもらって幸せだな」と顔に似合わぬ事を言って第二の人生を送り出した。この大谷石も産地で採取しすぎて陥没を起こし今は、入手が難しくなっている。最近の製品は、外見ばかりか良くてその実、中身のないものが多いのに比して大谷石は、弱そうに見えても、その強さを隠し長年の風雪に耐えて深い皺が刻まれ、それが実は味のある味を出している。この大谷石も何時の日か貴重品になる。そんな貴重品がこの森の休憩所やバーベキュー炉に活かされ保存される事は、嬉しく楽しい事と思いませんか？



### ★ 報告、1月度／運営会議：1月17日開催

- 1、斎藤さんから四月に計画している「植樹祭」の進行状況の報告。
- 2、鈴木（孝）さんの進めている森林整備班編成の状況報告。
- 3、小原本陣／県土木の砂防ダム計画報告  
小原本陣の森活動の見直しの必要な事と“孫山の頭”から小原本陣への状況報告と対策… 斎藤・
- 4、26日に相模湖町で行われる「親子体験環境展」に参加要請
- 5、28日に農工大：FSC取組の指導を受ける岸研究室を訪問する園田・兼松・斎藤・鈴木(孝)・石村の5人が行き2月第一土曜日活動日に内容を報告する。
- 6、その他として…、活動は、ここまで発展して来たのだからもっと明確な事業のグランドデザインが必要な時期。県に水源の森計画などある筈、調べて見よう。

- 1) 2月1日(第一土曜日)：若柳嵐山の森  
参加費300円、弁当持参。  
早めに切り上げて活動内容を相談する。
- 2) 2月9日(第二土曜日)：小原本陣の森  
9時±5分駅前集合、参加費300円
- 3) 2月16日(第三土曜日)、若柳嵐山の森  
参加費500円、植樹祭準備。  
詳細別紙参加申込書、臨時活動なし。
- 4) 2月23日(第四土曜日)：JR笛子駅前／10時  
H P ; <http://008.upp.sp-net.ne.jp/kitasagami/>
- ・ご支援自然保護団体：国土緑化推進機構金、7-11みどりの基金、損保ジャパン

モットー 急がず、休まず、楽しく、無理せず  
ボチボチと…、そして …沢山のご意見下さい。  
名 称 N P O : 緑のダム北相模／森林部会  
事務局 154-0023  
東京都 世田谷区 若林3-35-9  
TEL&FAX 03-3411-1636(自宅)  
T E L 03-3411-0602(事務局)  
お隣係 石村黄仁 (自然科学研究所 事務局)